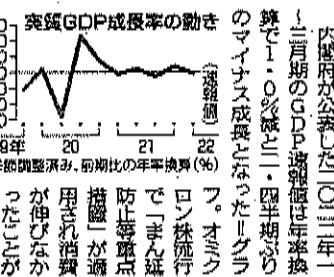


2022-5-19

5/19 月曜

田代謙生編（じだいきみや）が筆むか

べた本は読み終えた。口口トモヤ
物価高の影響で消費が低迷したた
めだ。財政出動の効果には疑問符
が付いており、減税による消費刺激
も検討を始めなくてはいけないか。内閣府が公表した2011年1
~2月期のGDP、季節調整年率換
算で1・0%減となり、四半期ぶり
のマイナス成長となつた=グラフ

（通銀調） 20 21 22 (%)
30 20 10 0 -10 -20 -30
2010年 2011年 2012年
※季節調整済み、四半期比の年率換算

で「赤ん坊の防護」が過

用され消費が伸びなかつたことが

主因だ。

実際、一揆でも「一月期は」一
九年十一月期年回りだ。成景気が10年前の水準まで戻つて
いないことが窺はれた形だ。政府は十七日、総合経済対策の
要件となる補正予算案を閣議決定した。二〇二二年度、政府の経済

対策は五回目となる。

政府の対策は現金給付ばかりが
目立つて来た。しかも財務省が公

表した二年の歳計額では、財

政額の前年比増加額が二〇一年以降

で最高になつた。

五十四人入り賃貸・ガソリン料金を含

めた生活必需品の値上げに扣車が

かかる一方、賃上げの勢いは依然

弱い。

高い生活費が将来への不安の中

で生活必需品の詰め替りに給付金を

ためしての姿は想像に難い。

それでもGDPの半分以上を占める個人消費が伸びるのはかない。

今回の補正の財源は会話赤字国

債でまかない。だが政府・与党内

に財政への影響を真剣に議論した

形跡はない。既にその影響を察覺化

している。

日本の金融基盤が広がって正規が

進み導入コストも増す一層複雑化押

し上げられる。また消費税を抑えるための税上げをすれば、かえって

膨れた金融の利子が逆算する。

国債発行が金融政策の手段を示す

うじこが状況である。

財政出動は既に来ている。ま

ずは個人消費を促進する政策を取
らねばならない。減税や消費税の緩和などこれが何とか。個人消費が回復しな
れば岸田文雄首相が意つ「経済
成長」の好調感が生まれまい。